

令和7年度 外部アドバイザー委員会 議事録(案)

実施日時：2025年12月18日（木）14:00～16:00

会 場：8号館1階レクチャーホール(対面)+オンライン (Zoom)

出席者：・現 地：17名

・オンライン：2名

欠 席：2名

議事次第

1. 主任挨拶
 2. 学科の状況
 3. 就職状況
 4. 各部会から活動報告
 - 学習・教育到達目標部会
 - 教育手段（教育課程の設計）
 - 教育手段（学習・教育の実施）
 - 教育組織
 - 入学・受入・移動方法部会
 - 教育環境・学生支援部会
 - 学習・教育到達目標達成部会
 - 教育改善部会
 - 学科FD
 5. 議論：技術者教育、社会からの要請、内部質保証 など自由討議
 6. 評価
-

定刻通り開会された。議事に入る前に、自己紹介があった。

1. 主任挨拶

資料に基づき、各部会の状況報告があった。

学科状況が説明された。

副専攻、卒業テーマ研究2の選択必修化、Jabee 終了の経緯とその後の対応などについて報告があった。

ほかの大学の状況はご存じか、という質問があった。→9大学のうち北海道大学について例が挙げられた。

2. 就職状況

資料に基づき、2024年度確定、2025年度暫定、7年間の推移、地質学会の報告と比較の報告があった。

留年について質問があった。

3. 学習・教育到達目標部会

資料に基づき、報告があった。

4. 教育手段（教育課程の設計）

資料に基づき、報告があった。

学則を満たしながらカリキュラムの微修正していることなどが説明された。

卒研2を取らない学生に対しての措置について質問があった。

学部のシラバス編集のチェックについて質問があった。

5. 教育手段（学習・教育の実施）

資料に基づき、報告があった。

「フィールド調査法」に認められる野外実習はどのように決めているのかという質問があった
評価についての時間数等について質問があった

6. 教育組織部会（教育の質的な向上）

資料に基づき、報告があった。

7. 学生受け入れ部会

資料に基づき、報告があった。

8. 教育環境・学生支援部会

資料に基づき、報告があった。

9. 学習・教育到達目標達成部会

資料に基づき、報告があった。

参加学生数が少ないのでは、（写真をみて）という質問があった。

→ 4年生で自身のコアタイムにいない学生がいたようだという報告があった。

→ 学生がコアタイムを意識するとりくみが必要ではないかという意見があった。

10. 教育的改善（教育改善部会）

資料に基づき、報告があった。

学生に対してのリスクアセスメントなのかという質問があった。

学科の図書について質問があった。

11. 自由討論

技術者教育、社会的要請、内部質保証の観点から、以下の事項について意見交換が行われた。

① 資格取得・専門職への支援について

- ・ JABEE 終了後の専門職就職支援として、資格試験（技術士・気象予報士等）の一次試験合格を早期に目指すための対策や講座の必要性について議論があった。
- ・ カリキュラムは当面現行体制を維持する予定であることが確認された。
- ・ 技術者倫理については、JABEE の有無に関わらず社会人基礎として重要であり、継続的な取り組みの必要性が指摘された。

② 内部質保証・教育の質

- ・ JABEE 終了後も、これまで構築してきた仕組みを活用し、内部質保証を継続していく重要性が確認された。
- ・ 外部評価に代わる形で、関係者との情報交換等の継続的な改善活動の必要性について意見があった。

③ 学生の関心・ニーズへの対応

- ・ 学生の関心は気象分野に集中する傾向があり、将来の職業との結び付けに関する意識は必ずしも高くないため、キャリア意識を高める働きかけの必要性が指摘された。
- ・ 高校で地学履修経験のない学生が多い現状を踏まえ、学習動機の形成や分野理解を促す取り組みの重要性が共有された。
- ・ 副専攻制度や他学科履修など、学習意欲を広げる仕組みの活用可能性について意見があった。
- ・ 社会における地球科学分野の需要や多様な進路について、学生への情報提供を強化する必要性が示された。

④ キャリア支援・企業連携

- ・ OB・OG 会社説明会は、職業理解を深める有効な機会となっていることが確認された。
- ・ 参加企業数や会場規模とのバランス、学生参加数の確保が課題として挙げられた。
- ・ 低学年の参加促進や、授業との連携など、より参加しやすい運営方法について検討の必要性が指摘された。

⑤ 学生対応・ハラスメント防止

- ・ 学生との関わり方については、個々の受け止め方に配慮し、ハラスメント防止の観点から慎重な対応が必要であるとの認識が共有された。
- ・ 課外活動や懇親の実施にあたっては、学生の多様性への配慮や事前確認など、適切な運営

の重要性が確認された。

以上の意見交換を踏まえ、教育の質向上、キャリア支援の充実、学生への適切な配慮を継続的に進めていくことの重要性が確認された。

以上

文責：太田